

社会福祉法人柘の子福祉会 瑞穂野保育園

園児数	内容区分（あてはまるものすべてに○を記入）
139名	(○) 遊びを通して楽しく体を動かすための環境の工夫 (○) 多様な体の動きを経験するための園庭や遊具の配置等の工夫 (○) 季節や気候等を考慮した計画的な指導計画の作成 (○) 体づくりに関する家庭との連携 (○) 教職員の資質向上のための取組

1 ねらい

- ・はだし保育を通して、楽しく遊びながらも、様々な感触を足裏から直接感じ、脳及び体の感覚の発達を乳児からの保育を通して促す。
- ・保育士同士ではだし遊びがある前提での、遊びの計画を立てて会議する事で、より安全に環境を整えてから活動に臨んだり、保育士同士で子どもの遊びについて観察しクラスの運営会議にてよく話すようにする。また、保護者とも連携を取り、子どもの足のケアや足洗などの生活習慣の取得に協力をしてもらう。

2 実施内容

- ・子どもたちの足裏には多くの感覚器官が存在し、それらから平衡感覚や自律神経、ホルモンの分泌といった部分をつかさどる脳の部位が刺激されるとされている。わが園のはだし保育は、乳児段階から連続し行う事で、心身の健康を保ち、また様々な感触遊びを行う事によって子どもたちの想像力を養い、自分自身の身体の動きを想像して楽しく遊べるように環境作りに努めている。段階的には0、1歳児の頃は安心できる園内でクッション等を使って平衡感覚を養いながらの運動遊びや、園庭砂場で砂の感触をじっくりと味わって遊ぶ。2歳児以降は、園の周りの自然豊かな環境を最大限利用しながら、はだしで思いきり体を動かして遊ぶ。そのうちに、ここはぬるぬるして滑る、ここは冷たい、固い等、周りの環境に適した動きを考えるようになる。4、5歳ともなると、感触を予想しながら自分の身体の動きを想像し、自分にその動きが可能かどうかの判別がつくようになる。そういった経験の下、子どもたちは、はだし保育によって体を想像通りに動かす楽しさを知って、自然と体を動かす遊びを楽しみ、それに応じて運動の能力もついてくる。

3 主な成果

- ・保育園の病欠率の低下
- ・運動能力の向上（就学後の保護者の報告により）
- ・足裏の感覚の発達に伴う、季節感（夏は暑い、冬は寒いと言った季節の認識）や危機察知能力、基本的な生活習慣といった「生きていく力（人間力）」の取得。

4 資料（画像または資料等を添付する。レイアウトは自由とする。）



・乳児組段階での、園庭でのはだし遊び。歩行がまだ不安定な子も多いので必要に応じて、靴下を履いて安全に遊ぶ。感触を確かめるように遊んでいるうちに、足元の違和感、素材による感触の違いに気づき、その正体を探ろうと、探索活動を始めている。

・室内でも、安心できる場所で環境を整えることによって、素材による感触の違いや、力をどこに入れると想像した動きができるのか確かめながら遊んでいる様子が見られる。



・段々と感覚器も発達して、冷たいけど気持ちいい、やわらかいからつまづきそう等、より複雑に周りの環境、自分の能力に応じた遊びを考えるようになる。それに合わせて、活動会議を重ねて、職員もより色々な感触を感じれる遊びを設定する。

・運動会もはだしで競技を行う。全速力で走るためには、小石が落ちていると痛くて走れないので、石拾いを行うようになった。

（職員はこどもの動きが最大限発揮でき、安全に楽しめるよう。年齢に応じての子どもの発見を促し、一緒に環境を作ることが重要である。）







・様々な遊びを楽しんでいくうちに自分のはだし遊びの経験の中から、ここは裸足のほうが良い、ここは靴のほうが良い等、適した場所で適した服装で、適した動きを楽しめるようになる。うまく体を動かして遊べると、もっともっと遊びが楽しくなる。子どもたちの必要な体力は日常の遊びの中で自然と培われていく。